

家族によるケアと「二次的依存」

— 発達に不安をもつ子を育てる家族に焦点をあてて —

○北海道大学大学院 保田 真希 (008291)

キーワード： ケア・二次的依存・発達障害

1. 研究目的

本報告の目的は、X県A市にある子ども総合支援センターを利用している家族に対して行った聞き取り調査の一部を整理し、家族の中でどのように家事や育児などの役割を行っているのか、そこにはどのような困難や不安があるのかを分析することである。これらの作業を通じて、ケアをする人が「二次的依存」に陥る現状について考えていきたい。

2. 研究の視点および方法

(1) 調査の概要

本調査は、X県A市にある子ども発達支援センターを利用している3-5歳児(保育所・幼稚園通園児)をもつ世帯を対象としている。子ども発達支援センターを通じて、3-5歳児(保育所・幼稚園通園児)をもつ43世帯に依頼文を配布し、実際に、協力を得られた39名に対して個別に半構造化インタビューを実施した。その際、録音をせずに、聞き取りの内容を記録した。そのため、本報告はこの記録をもとに、結果を整理し、分析していく。本報告で分析の対象となるのは39例である。

(2) A市にある子ども発達支援センターの特徴

X県A市は、X県内で最も広い行政区域である。対象としている児童は障がいのある就学前児童や、発達や発育に心配な点がある就学前児童、落ち着きのなさや行動、言葉が気になる就学前児童である。また、A市にある子ども発達支援センターは、言葉・運動・精神面等の発達に心配のある就学前児童についての相談と、発達を促していくための訓練を保護者と一緒に行っていく場所であり、子どもと保護者が一緒に通うという特徴がある。

(3) 研究の視点

就学前の時期は、特別なニーズや障害の有無にかかわらず、家族によるケアが必要な時期である。子育ての大変さや障害児を育てる家族の困難、発達障害を持つ親の大変さは従来から指摘されている。なぜ女性がケア役割に従事するのか、ケア役割が女性に偏在化・固定化する背景には何があるのかについては、「家事・育児」「介護」「障害児者のケア」の文脈で、実証的な研究が蓄積されている。家族内のケアの配分をめぐっては、「ケア＝女性の役割・労働」という言説や規範、「パワー（権力）」「経済的資源」「時間資源」などの資源の配分が関係していると考えられている。しかし、追加的なケア(介助や配慮)が必要となる障害児者へのケアについては、重度の障害児者へのケアを念頭に置いた議論になって

おり、障害か否か曖昧な状態で子育てを行っている家族には焦点があてられていない。そのため、ケアの配分をめぐる議論の文脈に一度置き、軽度の障害や障害か否か曖昧な状態であることが家族内の役割や家族員同士の関係（親と子、妻と夫など）、ジェンダー規範・意識などにどのように関連しているのかを考えていく。

3. 倫理的配慮

本研究は、日本社会福祉学会研究倫理指針を遵守している。また、本研究は北海道大学大学院教育学研究院における人間を対象とする研究倫理審査で承認されたものである。さらに、聞き取りを始める前に、協力者に対して調査の趣旨や概要、断ってもよいこと、データの取り扱い方法などを記載した資料を提示し、資料に沿って口頭で説明し、データの利用に関する同意を得ている。本研究は、協力者の匿名性の保障と個人情報の保護に基づき、個人の特定がなされないように細心の注意をもって行っている。

4. 研究結果

調査協力者 39 名のうち、女性が 38 名、男性が 1 名であった。今回、聞き取りに協力してくれた方は、普段、主に子どもと一緒に子ども総合支援センターに通っており、普段の家事や育児の役割を中心に行っていた。不安や困難としては、主に 4 つあった。第 1 に、ケア（子育て）そのものから生じている困難である。第 2 に、子どもの発達や障害に対する不安や困難である。第 3 に、家族内の役割の分担・ケア役割の固定化から生じている困難である。特に、役割が固定化され、ケアの負担が女性に集中することで困難が生じていた。第 4 に、子ども発達支援センターに子どもと一緒に通うことで生じた困難である。

5. 考察

本研究においても、男性 1 名を除いて、38 名の女性が中心的にケア役割を担っている構造が見られた。先行する研究においては、女性が男性に経済的に依存し、ケア役割を担うことは、労働市場においても、家族内においても、パワーが弱められることが指摘されている。しかし、本調査においては、女性がもつ経済的資源が少なく、専業主婦である場合に、家族内でのパワーが弱められ、家族内の役割配分で困難が生じている場合があった。特に、男性が子どもに対する理解が少なく、家事や育児を女性の役割であるという意識が高い場合に、子どもに手がかかる分、困難が生じていた。一方で、女性のパワーが弱まることなく、女性が働きかけることで、男性の行動や意識に影響を与え、男性が育児や家事に協力する構造が生まれている場合があった。この点については、夫妻がもつ資源、家事や育児に対する意識・ジェンダー規範、子どもの特性に対する理解の有無などが複合的に関わっていることが推察されるため、今後はこの点について細かく見ていく必要があるだろう。